**第3学年2組　音楽科学習指導案**

1. **題材名**せんりつのとくちょうをかんじとろう
2. **題材について**

本題材は、主に小学校学習指導要領解説音楽編　A表現　(1)　歌唱　イ「歌詞の内容、曲想にふさわしい表現を工夫し、思いや意図をもって歌うこと。」、　エ「お互いの歌声や副次的な旋律、伴奏を聴いて、声を合わせて歌うこと。」、　(2)　器楽　イ「曲想にふさわしい表現を工夫し、思いや意図をもって演奏すること。」、　エ「互いの楽器の音や副次的な旋律、伴奏を聴いて、音を合わせて演奏すること。」、　B鑑賞　(1)　ア　「曲想とその変化を感じ取って聴くこと。」、に関連している。本題材では、児童が旋律の特徴を感じ取りながら、曲想の変化を感じ取って聴いたり、曲想にふさわしい表現を工夫したりすることをねらいとしている。

　　　本学級の児童は、明るく元気な児童が多い。音楽の学習に対しても意欲的に取り組み、明るい雰囲気の中で大きな声でのびのびと歌ったり、演奏したりしている。時には教え合って演奏するなどと、互いに高め合いながら活動する姿が見られる。その一方で、旋律の特徴や楽曲のまとまりを感じ取り、曲想に合った表現の工夫をすることに課題が見られる。

　　　本題材では、旋律やリズムの特徴を生かし、曲想とその変化を感じ取ることによって表現の工夫を行う。そのために、音の上がり下がりやリズムに着目し、旋律の特徴の違いを明確にすることによって、楽曲に対する理解を深め、曲想にふさわしい表現を工夫していく。また、違う高さの音の重なりに耳を傾けることによって、音の響きを感じ取り、演奏することの楽しさをより味わうことができるようにする。

1. **題材の目標**

○旋律の特徴を感じ取りながら、曲想とその変化を感じ取って聴いたり、楽曲を聴いて感じ取ったことを言葉で表したりするなどして、楽曲の特徴のよさに気付くようにする。

　○旋律の特徴を生かして、曲想にふさわしい表現を工夫し、思いや意図をもって歌ったり演奏したりする。

1. **教材の選択**

○「あの雲のように」(歌唱・器楽)　作詞　芙龍明子　作曲者　不明　編曲　飯沼信義

　　　　ドイツ歌曲を原曲とする、ゆったりとした3拍子の曲である。順次進行の旋律が特徴的であり、曲想を感じ取って表現の工夫をさせたい。また、リコーダーや鍵盤ハーモニカで演奏することによって、音色の変化や音の重なりを感じ取るのに適した教材である。

○「メヌエット」(鑑賞)　作曲　ベートーベン

　　　　ABAの3部形式。3拍子のフランスの踊りの音楽である。バイオリンとピアノによる旋律の特徴、リズムの違いがはっきりしており、曲想の変化を感じ取って鑑賞するのに適した教材である。

◎「山のポルカ」(器楽)　チェコ民謡　編曲　岡部栄彦

　　　　ABAの3部形式。8分音符を中心としてつくられているアの部分と、4分音符と2分音符でつくられた滑らかな印象のイの違いが明確である。旋律の特徴の違いや、音の重なりを感じ取って演奏を工夫するのに適した教材である。

○「ふじ山」(歌唱)　文部省唱歌　作詞　巌谷小波

　　　　日本の象徴的な山である富士山の雄大さを歌った曲である。歌詞の表す情景を想像して表現を工夫したり、曲の山の盛り上げ方を工夫したりして歌うのに適した教材である。

**5本題材で主に取り扱う〔共通事項〕と学習の関わり**

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 〔共通事項〕ア | 旋律 | 音の重なり | 変化 |
| 主な学習活動 | ・旋律やリズムの特徴の違いを感じ取って聴いたり、表現を工夫したりする。 | ・違う高さの音が重なりあうことによる響きを感じて演奏する。 | ・曲想の変化を感じ取って聴いたり、表現を工夫したりする。 |

**6　題材の指導計画**

・「あの雲のように」を歌詞唱、演奏する。・・・・3時間

・「メヌエット」を鑑賞する。・・・・・・・・・・1時間

・「山のポルカ」をリコーダーで演奏する。・・・・4時間(本時3/4)

・「ふじ山」を歌詞唱する。・・・・・・・・・・・1時間

**7　指導と評価の計画**

1. 目標

○旋律の特徴の違いを感じ取って演奏の仕方を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもつようにする。

　(2)本時で扱う〔共通事項〕：ア　旋律　音の重なり　変化

(3)展開（3/4時）

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 学習内容・学習活動 | 内は学習活動に即した評価規準  指導上の留意点（・）　評価方法【　】 | 時間 |
| 1. 学習の雰囲気をつくる。   ・「山のポルカ」アをリコーダーで演奏する。  ・「山のポルカ」をCDで鑑賞する。   1. 「山のポルカ」イの後半を演奏する。   ・前時扱ったイの前半を演奏する。  ・イの後半の階名を確認し、階名唱をする。  ・イ全体を演奏する。   1. 曲想にふさわしい演奏の仕方を工夫する。   ・ア、イを通して演奏する。  ・1・2の川と3・4の川に分け、互いの演奏を聴き合う。  　・アとイの違いを考える。  　・旋律の特徴の違いを楽譜に書き込む。  　・アとイはそれぞれどのような演奏の工夫をすればよいか考える。     1. 本時の学習のまとめをする。   ・旋律の特徴の違いを楽譜に書き込む。  ・学級全体で通して演奏する。  ・録音を聴く。  ・次回予告をする。 | ・「山のポルカ」アを演奏することによって、前時の復習をする。  ・CDを聴いて曲の流れをおさえることで、ひとりひとりが理想の演奏を持つことができるようにする。  ・イの必要性を示すことで、活動に対し意欲を持つことができるようにする。  ・本時扱うイ後半は、前時に扱ったイ前半と重複する部分が多いため、前時に扱ったイ前半を復習することで本時の活動に取り組みやすくする。  ・演奏に取り組みやすくするために、階名を確認したうえで階名唱をする。  ・適宜範奏を示し、児童が演奏に対する意欲を高められるようにする。  ・ア、イを通して演奏することによって曲全体の流れを感じ取り、それぞれの部分の旋律の特徴が違うということに気付けるようにする。  ・互いに演奏し聴き合うことで、生の音の重なりを味わうことができるようにする。  ・聴いたり、演奏したりして感じ取ったことから、アとイの雰囲気の変化について考えるようにする。  ・楽譜の見た目や伴奏の感じの違い、旋律に合った体の動きなどを問いかけることによって、様々な視点から旋律の特徴の違いについて考えることができるようにする。  ・感じ取った旋律の特徴を楽譜に書き込むことで、アは弾むような、元気な感じ、イは滑らかな感じという特徴を整理するようにする。  ・旋律の違いを、どのような演奏の工夫をすれば表現できるか考えるようにする。  ・アはタンギングをはっきりとついて音を短めにし、イは音の長さを十分に保って演奏すると旋律の特徴を表現できるなど、具体的な奏法を助言する。  ○音楽表現の創意工夫【発言の内容・活動の様子】  　旋律の特徴の違いを感じ取って演奏の仕方を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもっている。  ・本時の内容を振り返り、通して演奏するようにする。  ・タブレット端末を用いて録音し、振り返りができるようにする。  ・次回予告をすることによって、次の時間の活動の見通しをもてるようにする。 | 10’  10  15’  10’ |

**8　備考**在籍児童数　35名